

はじめに

新年とともに気分を新たに研究にご専念のことと拝察いたします。

この号は、昨年7月17日(土)、18日(日)に開催した第2回公開シンポジウム「いま古典を問う」(於文部省統計数理研究所)を特集しています。

このシンポジウムにおいて、石井紫郎先生(国際日本文化研究センター教授)には、独立行政法人化を始めとする大学再編の趨勢の中で、古典学が生き残るための具体的方策をご提案いただきました。藤沢令夫先生(京都大学名誉教授)には、科学技術文明の内包する問題点すなわち物質的欲望充足と経済効率のみを基軸とする価値観の蔓延に抗して、「よりよく生きること」を探求し、人間性の回復に資することが古典学の意味であり、課題であることご指摘いただきました。また今道友信先生(英知大学教授)には、個々の言語の枠に捕われたパロキアリズム(局地的ヒューマニズム)を脱却し、人類全体の立場からする諸古典の新しいアクシオロジー(価値論)を考えるべきことについて、総合的に精説いただきました。

本号は関根清三氏が編集長として精力的に編集の労をとり、多くの方々から「研究ノート」の寄稿を蒐めて下さいました。また本号から新しい企画として「上山春平対談シリーズ」も開始されました。いずれも興味深く、読み応えのある号になりました。

3月24日(金)・25日(土)の両日にわたり、第3回公開シンポジウム「文明と古典」を開催します。裘錫圭先生(北京大学中国語文学系教授)、服部正明先生(京都大学名誉教授)、石川忠久先生(二松学舎大学教授)のご講演、パネルディスカッション「文明の中の古典の役割」および「原典」調整班を中心とする研究発表、ならびに「古典とは何か」をめぐる参加者全員の討議を予定しています。裘先生には中国における近年の出土文書の総括を、服部先生にはインド古典における哲学的思惟の特質を、石川先生には江戸の漢詩の中の中国古典を提示いただく予定です。このシンポジウムは日本学術会議(東京都港区六本木7-22-34・地下鉄千代田線乃木坂駅)との共催であり、1日目は日本学術会議、2日目は東京大学文学部(文京区本郷)で行われますので、是非ご参加ください。

平成11年度もあと2ヶ月余り。本特定領域参加者各位には、本号に及川昭文氏(総合研究大学院大学教授)が執筆くださった「科学研究費について」の項をご参考に、年度末の然るべき事務処理をお願いいたします。

平成12年1月27日

領域代表 中谷 英明